

令和6年度 事業報告

主 な 事 業 概 要 に つ い て

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

気候変動の影響により、近年、豪雨や台風といった自然災害が頻発・激甚化しています。これに伴い、全国各地での被害に加え、埼玉県八潮市での呼び径4.75mの下水道管破損が原因で発生した道路陥没事故も発生したことは、施設の老朽化への警鐘となり、南海トラフ地震や首都直下地震の巨大地震が近い将来に予想される中、事前防災とメンテナンスの精度、その効率を高めることの重要性が一層認識されています。

このような背景のもと、我々の業界でも、時間外労働の上限規制に対応するため、休日や準備期間、天候などを考慮した適正な工期設定、施工時期の平準化、労働条件の改善、女性の更なる活躍に向けた職場環境の整備が進められています。さらに、ICTの活用やDXの推進により、生産性の向上が目指されており、また、地域建設業が活躍する姿を広く社会に周知するための活動も多角的に進められています。

今年度の当協会の主な事業内容としては、未来の技術者を養成するため、引き続き建設技術講習会を開催しています。これらの講習会は県内3校で対面型式にて実施され、技術発表会では来賓をお招きして、各委員会からの成果発表が行われました。

岐阜社会基盤研究所の研究発表会では、『下水道の再構築（管更生・防食被覆工）』に関する発表を行い、岐阜県自然共生工法研究会にも参画し、産官学の各共同研究を通じて、他分野のノウハウや知識収集、人脈の形成、技術力向上に努めました。

トンネル技術委員会

1. 活動方針

トンネルの維持修繕や環境問題及び新工法に関して調査研究を行い、県内業者の技術力向上を図る事と、適正工法の研究等を行う事で、トンネル施工のより質の高い社会資本整備・公共福祉の増進に寄与する事を目的としました。

2. 活動内容

県内企業の技術力向上の為に、以下のような活動を行いました。

I. 見学会の開催

令和6年5月15日に「大野油坂道路 大谷トンネル大谷地区工事」
令和6年11月21日には「市道跡津川線 跡津川トンネル」の現場見学会を開催いたしました。

II. 技術発表会への参加

『新技術による生産性の向上と環境の改善について』と題して、覆工コンクリートにおけるスライドセントルの自動化による安全、施工、経済性の向上についての発表を行いました。

III. 建設技術講習会への参加

令和6年9月13日に飛騨高山高等学校2年生29名を対象に「社会基盤を支えるトンネル技術者」というテーマで講習を行いました。

ダム技術委員会

1. 活動方針

ダム、砂防堰堤の維持修繕・新技術・環境対策等に関して調査研究を行い会員相互の技術力向上を目指すと共に、地域への貢献につながるよう活動を行いました。

2. 活動内容

I. 現場見学会の開催

2工事現場「内ヶ谷ダム工事現場」、「新丸山ダム本体建設現場」における工事見学会を実施し、現状把握並びに問題点等への対策事例、新技術工法の事例等の情報収集により、ダム工事の技術力向上を図りました。

II. 技術発表会への参加

「岐阜県内におけるダム工事について」をテーマに、現場見学会の活動内容を発表しました。

III. 建設技術講習会への参加

令和6年9月13日に、飛騨高山高校の環境科2年生29名を対象

に、建設技術講習会が開催され、「ダム造り」について講習発表しました。

下水道技術委員会

1. 活動方針

下水道施設の劣化が進み、自然災害が頻繁に発生している状況下、耐震対策及び維持・修繕（更生）には多くの課題があります。また、建設業の人材不足・担い手不足により技術力の低下が見られます。それらを踏まえ、新技術等を採用した施工や新技術の研究開発及び実用化を目指し県内企業に情報提供や技術力の向上を目的に活動を行いました。

2. 活動内容

I. 新技術（ICT の活用）の研究開発及び実用化に向けての勉強会

下水道管は閉鎖空間なため、事前にその損傷具合を調べる作業性は低く、思うように進んでいないのが現状です。そのなかで、新技術の研究開発および実用化を加速することにより、下水道事業における低炭素・循環型社会の構築やライフサイクルコスト縮減、浸水対策、老朽化対策等を実現し、発展するための勉強会を行いました。

II. 下水道の維持・修繕（更生）工事に関する施工方法の検討

管更生工法や各施設の修繕方法の情報収集を行い、新技術の検討を行い、技術力の向上を目指しました。

III. 自然災害に対応した、下水道の検討（地域にあった製品の模索）

県内企業で出来る新技術（製品）の施工習得のため、情報収集を行い研究し、各委員の技術力向上を目指しました。また、地域にあった施工方法や製品の特長を把握するよう活動しました。

IV. 施工・製品の新技術の開拓

新技術の習得等、新たな方向性を見出す為にも、各講習会や展示会・新技術採用の施工現場見学などに各委員が積極的に参加し、有益な情報を取得し研究テーマに活かす予定でしたが、コロナやインフルエンザ等の状況によりインターネットなどの情報収集となりました。

V. 建設技術講習会への参加

- ・令和6年7月18日に岐阜県立岐阜工業高等学校にて、派遣講習会を実施しました。
- ・令和6年10月29日に岐阜社会基盤研究所研究等発表会に参加し発表しました。

橋梁技術委員会

1. 活動方針

道路施設の老朽化対策としての、点検・診断・処置の技術力向上を目指すと共に、会員相互のコミュニケーションをはかり、情報交換を密にして、社会資本の長寿命化等、地域への貢献につながるよう活動を行いました。

2. 活動内容

I. 技術発表会資料作成による技術向上

『岐阜県小規模橋梁点検の現状と新技術を活用した橋梁点検』と題して、岐阜県の橋梁点検結果の総括と橋梁点検への活用が期待される新技術を学び、橋梁の長寿命化に向けて、情報収集に努め、委員の知識・技術力の向上を目指しました。

II. 現場見学会の実施

県内の老朽化した橋梁補修工事に注視し、令和6年11月21日に河渡橋補修工事の SFRC（繊維補強コンクリート）による床版上面増厚工法の現場見学会を開催しました。

III. 建設技術講習会への参加

令和6年7月18日に岐阜工業高等学校 土木工学科2年生18名を対象に『橋梁とは』と題して、講習会を行いました。

自然共生技術委員会

1. 活動方針

建設工事と自然との関わりについて調査研究し、自然共生に関する知識や技術の向上を目的としました。

2. 活動内容

I. 概念「グリーンインフラストラクチャー」の考え方の理解

平成27年に国の施策に位置付けられた自然の持つ多様な機能を積極的に活用した社会資本整備や土地利用、管理の概念「グリーンインフラストラクチャー」の考え方を理解し、自然共生の視点から調査研究に取り組みました。

令和6年7月18日に、自然共生川づくりの事例「不破郡垂井町金地川」にて研修会を実施しました。。

II. 建設技術講習会への参加

令和6年11月12日に、可児工業高等学校 土木工学科2年生17名を対象に、『地域を守る建設業～防災と豊かな自然との共生のために～』というテーマで講習を行いました。建設会社が地域の安全や環境を守るために大いに活躍し、大切なやりがいのある仕事であることを強調して、建設会社という進路を積極的に検討するべく講習を行ってまいりました。

安全・環境委員会

1. 活動方針

社会基盤整備・維持管理の担い手として、労働安全・環境の改善策の提案指導、意識の向上及び自然環境問題への対応・改善を目的に活動しました。

2. 活動内容

I. 合同安全講習会に参加

令和6年6月12日、労働災害の防止についての講習を受講しました。

II. 現場パトロールの実施

令和6年7月4日、大垣江南線橋梁下部工工事現場の安全環境パトロールを実施しました。

Ⅲ. 技術発表会への参加について

令和6年8月8日、技術発表会（当協会主催）に参加し、「現場における安全と環境に対する取組み」について発表しました。

Ⅳ. 建設技術講習会の実施について

令和6年11月12日、可児工業高等学校にて建設技術派遣講習会を実施しました。

Ⅴ. 各種環境フォーラム等への参加

令和6年11月29日、ポートメッセ名古屋にて開催の「建設技術フェア」に参加し、i-Construction、防災・安全安心危機管理について学びました。

企画広報委員会

1. 活動方針

各委員会における研究・開発の成果を研修会等の企画・開催を通じて発信することで、地域の基盤整備に貢献する社会のニーズに応えるべく活動してまいりました。

2. 活動内容

Ⅰ. 技術発表会（当協会主催）

技術発表会を、令和6年8月8日にサンレイラ岐阜に於いて開催しました。ご来賓に岐阜県県土整備部 技術検査課 課長 辻 克紀様をお迎えしました。

技術発表を、トンネル技術、ダム技術、下水道技術、橋梁技術、自然共生技術、安全・環境の6委員会より発表しました。

Ⅱ. 研究発表会（岐阜社会基盤研究所主催）への参加

令和6年10月29日に、岐阜市文化センターに於いて開催された研究発表会へ参加しました。

Ⅲ. 建設技術講習会の開催

- 1) 令和6年7月18日に、岐阜工業高等学校 土木工学科2年生 18名対象で開催しました。

第1部は、企画・広報委員会、橋梁技術委員会、下水道技術委員会にて講義をしました。第2部では、会員企業の若手技術者とグループディスカッション『若手技術者がホンネで答えます！』と題して、若手技術者が日々の就業内容を説明するとともに、学生の質問に本音で答弁しました。

- 2) 令和6年9月13日に、飛騨高山高等学校 環境科学科2年生29名対象で開催しました。

第1部は、企画・広報委員会、ダム技術委員会、トンネル技術委員会にて講義をしました。第2部では、会員企業の若手技術者とグループディスカッション『若手技術者がホンネで答えます！』と題して、若手技術者が日々の就業内容を説明するとともに、学生の質問に本音で答弁しました。

- 3) 令和6年11月12日に、可児工業高等学校 土木工学科2年生17名対象で開催しました。

第1部は、企画・広報委員会、自然共生技術委員会、安全・環境委員会にて講義をしました。第2部では、会員企業の若手技術者とグループディスカッション『若手技術者がホンネで答えます！』と題して、若手技術者が日々の就業内容を説明するとともに、学生の質問に本音で答弁しました。

IV. 広報活動の実施

各委員会の活動・研究成果などを一般の方々へ広く知っていただくために、パンフレットの作成・自前のホームページの運用を通じ広報活動に努めました。